

インプラントの上部補綴固定様式の選択：
どっちがいいの？ スクリュー固定VSセメント固定
山野 精一 先生

ニューヨーク大学歯学部補綴学講座

日時：令和5年6月2日（金） 18：00～19：30

場所：昭和大学歯科病院第1臨床講堂

講演内容

現在の欠損歯症例におけるインプラント治療は、予知性と有用性の高い標準治療の一つとされています。固定性インプラント補綴における上部構造には、(1) スクリュー固定式、(2) セメント固定式の2種類があります。スクリュー固定式はインプラントと上部構造補綴物を直接スクリュー（ねじ）で締めて装着するものであり、セメント固定式はインプラントとアバットメントをスクリューで固定した後、天然歯支台同様にその上に補綴物を合着もしくは仮着用セメントを用いて装着するものです。最近のシステミック・レビューでは、両者の様式とも5年、10年の生存率は良好であるという結果が報告されています。しかしながら、両者とも様々な状況別に利点と欠点を有しており、それらを熟知した上で個々の症例において、上部補綴固定様式の選択を決定することが望ましいと思われます。今回の講演では、スクリュー固定式とセメント固定式のどちらの特徴が優っているのかを様々な状況別に最近の文献的知見を交えながら、ユニークなスタイルで皆さんと一緒に考えて議論したいと思っています。

多くの先生方、大学院生の皆さんの参加をお待ちしております。

主催：昭和大学歯学部歯科補綴学講座・口腔病理学部門

お問い合わせ：昭和大学歯科補綴学講座

高場雅之

e-mail : mtakaba@dent.showa-u.ac.jp

本セミナーはリカレント認定です。

